

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模	経営・技術の特徴
茶協業 (乗用型)	4人	生葉生産 1,800	1. 専業農家4戸が経営を共同化し、製茶工場を新設、農機具を新たに整備する。茶園は、各自の従前からのものを継続管理し、そのうち、面積の1割については、基盤整備を伴う改植を実施する。 2. 品種は早生品種「さえみどり」等を3割(うち1割を改植)、「やぶきた」5割、晩生品種「おくゆたか」等2割とし、蒸製玉緑茶を生産する。 3. 目標収量は、標準技術で達成可能な収量とし、「やぶきた」成園の10a当たり生産量で、一番茶550kg、二番茶400kg、三番茶250kgとする。注) 4. 栽培方式は高品質茶生産を図るため、被覆栽培とする。 5. 防霜ファンは、茶園の80%に設置し、生産安定を図る。 6. 製茶加工は、120K型1.5ライン(3-2-3-2)2系列による生産と、工場の生産性を高めるため、600a分の一番茶生葉の受託加工を行う。
		荒茶生産 1,800 受託加工(生葉) 600 幼木園育成 200 経営規模 2,000 耕地面積 畑(成園) 1,800 畑(改植による幼木園) 200	
経営目標	1 農業総収入 103,250 千円 2 農業経営費 75,662 千円 3 農業所得 27,587 千円 構成員一人当たり (6,897 千円)	4 1日当たり農業所得 32,837 円 5 1人当たり年間労働時間 1,680 時間	

注) 生産性・作業性の向上のため、定期的の中切・深刈更新を実施し、更新後の茶葉の摘採は行わないこと(二番茶は面積の2割、三番茶は面積の5割を不摘採)や、品種により植栽面積が異なるため、経営全体における実質的な平均生葉収量は、10a換算で一番茶561kg、二番茶338kg、三番茶97kg、秋番茶178kg、合計1,174kgとする。

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	防霜ファン 1,000a(既存)		1,000a 3~4.5kw/10a	1	千円 43,200	年 7	千円 3,086
	防霜ファン 600a		600a 3~4.5kw/10a	1	35,460	7	2,533
	製茶工場 1,400m ²		鉄骨スレート葺き	1	75,600	38	1,989
	製茶機 120K 1.5ライン(3-2-3-2) 2系列		生葉処理量 720kg/時間	1	246,400	10	12,320
	計					400,660	
農機具	乗用型摘採機(浅刈、刈捨装置を含む)	2	34.3ps	1	13,246	7	946
	乗用型防除機	2	27.5ps・茶少量農薬散布用	1	8,474	7	605
	乗用型管理複合機(施肥・堆肥散布・中耕装置含む)	1	43ps	1	9,250	7	661
	乗用型管理複合機(サブソイラー・施肥・堆肥散布・中耕装置含む)	1	43ps	1	9,962	7	712
	自走式両面鋸刈機	3	23cc	1	624	7	45
	乗用機械運搬車(2tスライダー)	2	2t	1	6,000	5	600
	普通トラック	2	2t	1	4,600	5	460
計					52,157		4,028

3. 技術体系

1-1) 作業体系[茶協業(乗用型)]

(10a当たり:人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
栽	施肥	畦間全面に施肥したあと、管理機で浅耕する。	春肥	乗用型管理機(肥料散布・中耕装置)	2	0.3	0.6	施肥基準による。 肥効調節型肥料使用の場合は、追肥を省くことが出来る。 芽出し肥に液肥を施用する場合は乗用型防除機を活用し、株元へ散布する。
	浅耕		2月下旬~3月上旬					
4月上旬								
追肥Ⅰ								
5月中~下旬								
追肥Ⅱ								
6月下旬~7月上旬								
秋肥	8月下旬~9月上旬	2	0.6	1.2				
培	除草	摘採面及び株元の除草を人力で行う。	4月中~下旬	4	0.5	2.0		
			6月上~旬					
7月中~下旬								
8月中~下旬								
10月下~11月上旬								
管	病害虫防除	ハダニ防除の場合は葉裏まで十分付着	2月上~中旬	乗用型防除機(少量農薬散布用)	2	0.4	0.8	病害虫防除基準による。 殺ダニ剤 400ℓ/10a 殺虫・殺菌剤 100~120ℓ/10a クワシロカイガラムシ 1,000ℓ/10a(2年に1回)
			2月中~下旬					
4月上旬								
5月下旬								
7月上~中旬								
8月中旬								
8月下旬								
9月中旬								
品質向上			被覆					
	二番茶期							
摘採	摘採	一番茶は出開度40~70%、二・三番茶は出開度50~60%をめどに摘採する。	一番茶	乗用型摘採機	2	0.4	0.8	各茶期とも適期を逸しないように、計画的に行う。 三番茶芽の芽伸び不良園では摘採を中止し、良好な園では8月上旬までにせん除する。
			4月中~5月上旬					
			二番茶					
			6月上~下旬					
			三番茶					
7月上~下旬								
秋番茶	10月上旬	2	0.3	0.6				
整枝	整枝	萌芽前に新芽を切断しない高さで摘採面を整える。 刈番は摘採14~16日後に行う。 三番茶芽及び再生芽は8月10日までに秋芽の芽数が多い位置で行う。	3月上旬	乗用型摘採機(刈捨て装置)	1	0.2	0.2	一番茶萌芽前に樹冠面の乱れが見られる場合は、整枝を行う。 二・三番茶萌芽前に遅れ芽が見られる場合は、萌芽前に再整枝を行う。 秋整枝は秋芽の硬化を見て行い、寒害常襲地では春整枝(2月下旬~3月上旬)を行う。
			5月上~中旬					
			6月中~下旬					
			7月下~8月上旬					
			10月中~下旬					

3. 技術体系

1-2) 作業体系 (乗用型)

(10a当たり:人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
整枝	裾刈り	畦間の空間が25cm程度になるよう裾部を刈り落とす。	各茶期後及び秋整枝前	自走式裾刈機	1	3.2	3.2	
更	中切り	一番茶後に地際より45cm前後の高さで水平に行う。	5月中～下旬	乗用型中切り機	1	0.2 (1.0)	0.2 (1.0)	中切りは5年に1回実施する。
新	せん枝	二番茶後に摘採面から10～20cm刈り下げる	6月中～下旬	乗用型摘採機(せん枝装置)	1	1.0	1.0	摘採後速やかに実施できる場合は、深めに刈り下げ、6月下旬には、浅刈り程度とする。
土	土壤改良	秋肥施用の2週間前までに石灰資材を投入し、管理機で土壤と混和する。	7月下～8月中旬	乗用型管理機(施肥散布装置)	2	0.4	0.8	施肥基準による。 三番茶摘採後に酸度検定を行い、pH(純水)4.0～5.0に矯正する。
づ	深耕	隔年で行う。	8月上～下旬	乗用型管理機(深耕装置)	1	0.5 (1.0)	0.5 (1.0)	新根の発生が旺盛になる前に終えること。
く	有機資材投入		12月上～1月下	乗用型管理機(堆肥散布・中耕装置)	2	0.4	0.8	堆肥2t以上 完熟堆肥を用いる。
り	環境整備	圃場周辺の除草・排水対策、側溝、耕作道整備な機械・施設等を点検整備する。	1月～11月 2月下～3月下旬	草刈機等	4 4	2.0 0.3	8.0 1.2	除草剤散布の場合は、除草剤使用基準を適用する。 チェックシートを準備し、点検・清掃・部品交換等を行う。
合計							40.9	

注) ()内の数値は、1回の作業時間である。

4. 品目の作体系 (○ 一番茶収穫、△ 二番茶収穫、□ 三番茶収穫、◇ 秋番茶収穫)

品目	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
茶																								
(被覆栽培)																								

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計														
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																
施肥・深耕			0.3	0.3			0.6		0.4	0.2							0.6	0.6						3.6															
除草							1.0	1.0			1.0	1.0				1.0	1.0			1.0	1.0			10.0															
病虫害防除			0.4	0.8	0.4		0.8	0.7			0.8	0.7												4.4															
被覆							0.2	0.3	0.3		0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4					3.0															
摘採					0.2				0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	2.6															
整枝									0.4	0.4	0.4	0.4												1.6															
掘刈り										0.2														0.2															
せん枝											0.5	0.5												1.0															
土壌改良														0.4	0.4									0.8															
深耕															0.3	0.2								0.5															
有機資材投入	0.1	0.2	0.1																					0.8															
環境整備		0.7		0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7															9.2															
総労働時間計	0.1	0.2	0.8	0.4	1.5	0.7	1.2	0.7	0.7	1.2	0.4	0.3	2.0	2.0	0.4	1.7	1.2	3.1	2.9	1.3	1.6	2.1	0.8	1.3	2.8	2.0	0.6	1.1	0.0	1.7	0.6	1.2	1.0	0.0	0.7	0.1	0.2	0.1	40.9
製茶加工	0.1	0.2	0.8	0.4	1.5	0.7	1.2	0.7	0.7	1.2	2.4	0.9	1.7	1.2	3.4	3.3	1.5	1.7	2.2	0.9	1.4	2.8	2.0	0.6	1.1	0.0	2.0	0.6	1.2	1.0	0.0	0.7	0.1	0.2	0.1	2.7			
月計	1.1		2.6		2.6		6.7		3.8		8.2		4.8		6.2		1.7		3.8		3.8		0.4		43.6														

6. 総労働時間

総労働時間	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計												
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下														
労働時間	20	40	160	80	300	140	240	440	480	180	240	680	660	300	340	440	180	400	560	400	400	120	240	240	400	20	40	20	40	20	40	20	40	20	40	20	8,720
うち茶葉労働	10	20	115	80	285	140	265	385	280	180	225	660	355	390	300	315	380	180	200	415	375	120	185	120	285	40	215	175	0	105	10	20	10	20	10	6,580	
うち雇用労働(常時)	10	20	45	0	35	0	35	35	57	33	0	115	80	172	133	0	25	60	0	80	145	25	0	35	115	80	25	0	35	10	20	10	20	10	1,580		
うち雇用労働(臨時)	0	0	0	0	0	0	0	0	153	137	0	0	153	137	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	580